

明治から現代まで、日本の産業災害を多角的に通覧

日外選書
Fontana

産業災害全史



9784816922275

〈シリーズ災害・事故史4〉

日外アソシエーツ編集部 編

A5・450頁 定価(本体12,200円+税) ISBN978-4-8169-2227-5 2010年1月刊行

公害、炭鉱事故、産業施設の爆発・火災、原発事故など 産業災害を時系列でたどれる記録事典

●明治から平成20年までに発生した、労働災害をも含む日本の産業災害を年表形式で通覧できる記録事典です。

詳細な解説により、背景、経過、被害状況を把握

●第Ⅰ部では大惨事となった30件について事実経過、被害状況、影響と対策などを解説、慰霊碑などの関連情報を掲載しました。第Ⅱ部では産業災害2,545件を年表形式で記載、事実経過と被害状況がわかります。

●「事項名索引」付き。

好評
既刊

台風・気象災害全史〈シリーズ災害・事故史3〉 宮澤清治、日外アソシエーツ 共編
A5・480頁 定価(本体9,333円+税) ISBN978-4-8169-2126-1 2008.7刊

地震・噴火災害全史〈シリーズ災害・事故史2〉 災害情報センター、日外アソシエーツ 共編
A5・390頁 定価(本体9,333円+税) ISBN978-4-8169-2089-9 2008.2刊

鉄道・航空機事故全史〈シリーズ災害・事故史1〉 災害情報センター、日外アソシエーツ 共編
A5・510頁 定価(本体8,000円+税) ISBN978-4-8169-2043-1 2007.5刊

【第Ⅰ部収録例】

足尾鋇毒	1885年(M18)
日立鋇山煙害	1914年(T3)
花火問屋爆発	1955年(S30) 8/1
イタイイタイ病	1955年(S30) 8/4
森永砒素ミルク中毒事件	1955年(S30) 8/24
水俣病	1956年(S31)
四日市ぜんそく	1961年(S36)
サリドマイド薬害	1962年(S37)
三池炭鉱坑内爆発	1963年(S38) 11/9
新潟水俣病	1964年(S39)
夕張炭鉱坑内ガス爆発	1965年(S40) 2/22
カネミ油症事件	1968年(S43) 10/3
大阪空港騒音被害	1969年(S44) 12
光化学スモッグ発生	1970年(S45) 7/18
スモン薬害	1970年(S45)
名古屋新幹線公害訴訟	1974年(S49) 3/30
原子力船「むつ」放射線漏れ	1974年(S49) 9/1
六価クロム汚染	1975年(S50) 7/16
夕張新炭鉱ガス突出事故	1981年(S56) 10/16
三井三池有明鋇火災	1984年(S59) 1/18
ミドリ十字薬害エイズ事件	1985年(S60) 5/30
油脂タンク点検中の爆発火災	1991年(H3) 12/22
高速増殖原型炉「もんじゅ」の2次系ナトリウム漏洩	1995年(H7) 12/8
東海村JCO臨界事故	1999年(H11) 9/30
高濃度ダイオキシン検出	2000年(H12) 3/24
アスベスト被害	2005年(H17) 6/29
…など全30件	

2017.2

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

注文書	■貴店名	産業災害全史 〈シリーズ災害・事故史4〉 定価(本体12,200円+税) ISBN978-4-8169-2227-5	冊
			冊
	■お名前		

CASE

01

足尾鉬毒

date 1885年(明治18年) | scene 栃木・足尾

経緯

栃木県上都賀郡足尾町(現日光市足尾地区)にある足尾銅山は1610年(慶長15年)に発見され、江戸時代には「足尾千軒」と称される程に繁栄したが、幕末の頃には廃山同様にまで衰退していた。

1877年(明治10年)に古河財閥創業者である古河市兵衛が足尾銅山を買収して近代的経営に着手、1884年には別子銅山(愛媛県新居浜市)を抜いて生産量全国一位となった。その反面、「鉬山開発第一主義」をモットーに掲げる古河の経営手法は周辺地域に深刻な公害を引き起こすことにもなった。その第一は足尾山林の荒廃で、製錬用薪炭材・坑木用材の乱伐や排煙に含まれる亜硫酸ガスにより、1893年までに約1万2,000haが無立木地と化し、大規模な洪水の頻発を招いた。第二は渡良瀬川流域の鉬毒汚染で、銅・亜鉛・鉛・ヒ素などの重金属を含む廃石や鉬滓、酸性廃水が渡良瀬川に大量に垂れ流され、下流に位置する農地数万haで農作物の生育不良や枯死、住民や家畜の健康被害が続出した。

被害状況

keyword【キーワード】：銅山 日本の公害の原点

鉬毒による被害は1885年頃に鮎の大量死や鮭の漁獲量激減などの漁業被害として顕在化し、1887年頃には下流域の農民が鉬毒被害を認識するようになった。1890年8月には大洪水が発生して被害が激化、農民による鉬毒反対運動が発生し、1891年12月の第2回帝国議会で田中正造が最初の鉬毒質問を行った。富国強兵・殖産興業を推し進める中で銅産業を保護する必要に迫られていた政府は鉬毒問題を重視し、古河と農民の間で僅かな補償と引き換えに鉬毒被害の請求権を放棄する永久示談を進めさせた。また、日清戦争が勃発したこともあり反対運動は下火になったが、1896年7月から9月にかけての大洪水で被害が栃木・群馬から東京・千葉まで拡大、田中の指導下で「対政府鉬業停止運動」として組織化され、同年の第9回帝国議会で田中が永久示談の不当性を追及した。1897年3月には農民数千人が上京して陳情を行う「押し」が2回にわたり行われて鉬毒問題が社会問題化、政府が第1次鉬毒調査委員会を設置し、5月には古河への鉬毒予防工事命令が決定され、1898年5月には農民への地租減免処分が実施された。なお、この古河への鉬毒予防工事

「第I部」は30件の大災害を詳説

事実経過、被害状況、原因、影響と対策などとともに、慰霊碑などの関連情報も記載

鉬山に不十分な鉬施設の設置が義務付け。しかし、予防工事がなものであった上、地租該当者の公民権・衆議院選挙権剥奪や税収減に地方自治の破壊を招いた。1900年2月12日に田中の押しが実行され、3日には押しし途上の警官隊と衝突して68名が捕される「川俣事件」が発生した。1901年12月には田中が明治天皇へを決心、警官隊に取り直訴は失敗したが、新聞報道などにより世論が沸騰した。反の各地の鉬山への波及る政府は1902年に鉬毒調査委員会を設置し、鉬毒問題を治水問題へとえ、日露戦争勃発による問題への関心が低下す反対運動の中心地である県下都賀郡谷中村(現・T)の廃村と遊水地化を中村が廃村となった後谷中村に仮小屋を建てて抵抗を続けたが、1913年(大正2年)9

月4日に田中が死去、1917年に残留民が立ち退き、「日本の公害の原点」と呼ばれる足尾鉬毒事件は終結した。

影響と対策

1910年から1927年にかけて、洪水防止を名目に渡良瀬遊水地造成や渡良瀬川大改修が行われたが、発生源対策が不十分だったため、その後も鉬毒被害は継続的に発生。1958年(昭和33年)5月に源五郎沢堆積場が、1966年9月には天狗沢堆積場が決壊して群馬県山田郡毛里田村(現・太田市)など広範な地域が被害を受けた。また、1971年2月には太田市毛里田地区産米からカドミウムが検出されたが、1974年5月11日に古河鉬業と被害農民との間で調停が成立し、古河鉬業が初めて鉬毒被害に対する責任を認めた。なお、国や県による土壤汚染対策事業や治山事業は現在も行われている。

残す、偲ぶ

足尾銅山は1973年2月28日に閉山、1989年には輸入鉬石による製錬事業が事実上停止された。現在、足尾銅山跡は「足尾銅山観光」として観光地化されており、国の史跡や近代化産業遺産群33(経済産業省)に指定されている。

第I部 大災害の系譜 | 021

1970年(昭和45)～

0838 水道悪臭発生

1970年(昭和45)1月3日 東京都

1月3日、東京都の利根川水系の上水道水に悪臭が発生、住民約100万世帯に被害が及び、都水道局は朝霞浄水場の機能を停止させた。同局の調査によれば、原因は利根川上流にある群馬県の工場が廃液を排出したためとみられる。

●被災者約100万世帯

0839 佐世保重工業造船所足場崩壊

1970年(昭和45)1月7日 長崎県

1月7日、長崎県佐世保市の佐世保重工業造船所でタンカー塗装作業用の足場が崩壊し、作業員2名が死亡、8名が負傷した。

●死者2名、負傷者8名(労働省調べ)

0840 戸高鉬業採石場落盤

1970年(昭和45)1月10日 大分県

1月10日、大分県津久見市の戸高鉬業第2鉬山の露天掘り現場で採石場(約10万トン)が高

4月23日午後9時過ぎ、富山市西宮の昭和電工富山工場の9号電気炉付近で爆発が発生し、従業員6名と周辺の住民23名が重軽傷を負い、家屋数棟の窓ガラスが爆風で割れた。

●重軽傷者29名、家屋数棟破損

0856 中郷炭鉬坑内落盤

1970年(昭和45)4月24日 茨城県

4月24日、茨城県北茨城市の常盤炭礦中郷炭鉬の坑内で落盤が発生し、作業員2名が死亡した。

●死者2名(通商産業省調べ)

0857 バナナ卸業者保存室爆発

1970年(昭和45)4月24日 青森県

4月24日未明、青森市長島のバナナ卸業者のバナナ保存室が爆発し、同者の住宅や作業場、隣接の住宅の物置が壊れ、付近のアパートなど13棟の窓ガラスや扉が割れ、住民2名が負傷した。

●負傷者2名、損壊家屋17棟

0858 山石金属工場爆発

「第II部」は
年表形式で通覧

明治から平成20年
までに発生した
2,545件を掲載